

(3) ビルマルートの再開

1960

昭和15年10月8日

松岡外務大臣より  
在英国重光大使宛(電報)

援蔣ルート封鎖に関する日英協定は期間満了  
後更新しない旨クレギー大使通告について

別電

昭和十五年十月八日發松岡外務大臣より在英

国重光大使宛第八〇二号

右口上書

付記 右口上書和訳文

本省 10月8日後9時30分發

第八〇一號

八日午前在京英國大使本大臣ヲ來訪シ「ビルマ、ルート」  
ノ再開ニ付別電第八〇二號ノ如キ「オーラル、ステートメ  
ント」ヲ讀上ケタリ本大臣ハ之ニ對シ

(一)我政府ハ總ユル手段ヲ盡シテ支那ト和平ニ達セント努力  
シタルモ遺憾乍ラ今日迄ノ處完全ニハ成功シタリト云ヒ  
得サルモ

(二)本件英側措置ハ甚タ遺憾ニシテ斯ル態度ヲ英國ニ於テ執

ラルルコトハ速ニ全支那ト和平ニ達セントスル我政府乃  
至本大臣ノ仕事ヲ困難ナラシムル旨

(三)竝ニ本大臣ハ從來ノ通排英運動取締リニ努力スル考ナル  
コト勿論ナルカ英國今回ノ處置ニ依リ右取締リハ相當困  
難トナルヘク其ノ責任ハ英國側ニ於テ負フヘキモノナル  
旨

ヲ述ヘ兎モ角本件ハ之ニテ終結シタルモノナリト述ヘ置ケ  
リ  
別電ト共ニ米、獨、北京、南京、香港、上海、天津、蘭貢、  
河内、「バタヴィア」ニ轉電セリ  
獨ヨリ伊、蘇ヘ轉電アリタシ

(別電)

第八〇二號

本省 10月8日後9時20分發

The agreement of July 17th for the temporary closing  
of the Burma Road to the transport of certain materials to  
China was offered by His Majesty's Government on the  
understanding that, during the period of its validity, special

efforts would be made to bring about a just and equitable peace in the Far East. The agreement provided that at the end of the period of three months, His Majesty's Government would remain free either to continue or discontinue the arrangement in accordance with conditions existing at the time.

Thus the purpose of this arrangement, so far as His Majesty's Government were concerned was to afford an interval during which a genuine effort might be made to reach an all-round settlement. This object has not been achieved. On the contrary the Japanese Government have obtained facilities for sending their troops into Indo-China in order to launch a fresh attack on China. Furthermore the Japanese Government have concluded a political, military and economic pact with the Axis Powers.

In the circumstances described His Majesty's Government regret that they do not see their way to renew this agreement when it expires on October 17th.

(付記)

昭和十五年十月八日在京「クレーギー」英國大使ノ  
松岡外務大臣宛口頭通告

一定物資ノ支那向輸送ニ對スル「ビルマ」道路ノ一時的閉鎖ノ爲ノ七月十七日附協定ハ其ノ有効期間中極東ニ正當ニシテ衡平ナル平和ヲ招來センカ爲特殊ノ努力カ拂ハルヘシトノ了解ノ下ニ英國政府ヨリ供與セラレタルモノナリ。本協定ハ三ヶ月ノ期間ノ終ニ於テ英國政府ハ右時期ニ存スル狀況ニ從ヒ自由ニ其取極ヲ繼續若クハ廢止シ得ル旨ヲ規定シタリ。

從テ本協定ノ目的ハ英國政府ノ關スル限り完全ナル和平解決ニ到達スル爲眞摯ナル努力ヲ爲シ得ル爲ノ期間ヲ與フルニ在リタリ。右目的ハ實現セラレサリキ、日本政府ハ反テ支那ニ對シ新ナル攻撃ヲ開始センカ爲印度支那ヘ軍隊ヲ送ル便宜ヲ獲得セリ。加之日本政府ハ樞軸國ト政治的、軍事的、經濟的協約ヲ締結セリ。

上述ノ情勢ニ於テ英國政府ハ十月十七日日本協定ノ失效スルニ關シ之ヲ更新スルヲ得サルコトヲ遺憾トス。

1961

昭和十五年十月十日

ビルマルートを再開する旨の英国首相演説に  
対する松岡外相談話

英國首相ノ演説ニ對スル松岡外務大臣談話

昭和十五年十月十日午後七時半發表

所謂緬甸「ルート」ノ再開ニ關スル英國政府ノ決定ニ就テ本月八日「チャーチル」英國首相カ下院ニ於テ爲シタ演説ニ對シテ、彼是批評カマシイコトヲ云フノハ好マナイ所テアルカ、此ノ問題竝ニ日獨伊三國條約ニ關連シテ茲ニ所信ヲ開陳スルハ事態ノ真相ヲ明白ナラシムル上ニ敢テ徒爾テハナイト思フ。

第一二ハ、緬甸「ルート」ヲ三ヶ月間閉鎖スルトイフ英國政府トノ取極ハ、此ノ期間内ニ、日本カ支那事變ヲ終熄セシメルト云フ條件ノ下ニ行ハレタノテハ決シテ無イ。勿論日本ハ當時モ今日同様日支間ニ全面的和平ノ到來スルコトカ、一日モ速ナルヲ熱望シテ居リ、自然其ノ趣旨ヲ當時駐日英國大使ニモ話シタコトハアル。

日本カ他ノ何レノ國ヨリモ、日支間ノ平和克復ヲ熱望スル

處ナルハ疑ヲ容ルルノ餘地無ク日本ハ從來モ又現在ニ於テモ之カ爲全力ヲ傾倒シテ熄マナイノテアル。「チャーチル」首相カ以テ遺憾ナリトシテ居ル日獨伊三國條約ソノモノモ實ハ右目的達成ノ一手段ニ他ナラナイノテアル。

第二二ハ、若シ英國政府カ、ソノ言フ如ク眞ニ東亞ニ平和ノ招來セラレンコトノ一日モ速ナルヲ欲スルナラハ、緬甸「ルート」ヲ再開シ、之ニ依テ抗日戰繼續ヲ支持シテ置キ乍ラ日支和平ヲ期待セントスルカ如キハ余ノ諒解シ難イ所テアル。英國政府カ不明ニモ爲シタル今次決定ハソノ意圖スル處カ那邊ニ在ルニモセヨ援蔣ノ結果トナルハ、何人ニモ明白ナル所テアリ自然「チャーチル」首相ノ言説ハ少クトモ自家撞着ノ誠(譯カ)リヲ免レナイ。

最後ニ附言シタイコトハ、今回ノ三國條約ハ何レノ特定國ヲモ目標トシテ居ルモノテハナイ。勿論米國ヲ向フニ廻スト云フノテハナク強テ言ヘハ米國ニモ好カレカシトノ考ヘテ締結セラレタルモノテアル。

即チ、本條約ノ締約國ハ凡テノ中立國、特ニ米國ノ如キ強大ナル國家カ歐洲戰爭又ハ支那事變ニ捲キ込マルコト無キヲ欲スルモノテアル。若シ米國等カ捲キ込マレルコトカ

アラウモノナラ、ソレコソ人類ノ一大兇變テアツテ、ソノ  
慘禍ハ考ヘルタニ戰慄ヲ禁シ得ナイモノカアル。  
之ヲ要スルニ、今回ノ三國條約ハ、平和ノ盟約テアル。

1962

昭和15年10月11日

在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港經由援蔣軍需物資禁輸措置の期限の有無  
をめぐる香港民政長官との会談について

香港 10月11日午後  
本省 10月11日夜着

第五五〇號

貴電第二五八號ニ關シ(緬甸「ルート」)交渉狀況竝ニ香港  
禁絶期間ノ件)

其ノ後モ八日民政長官ニ會見シ我方見解ヲ繰返シ主張シタ  
ル處長官ハ香港ニ關シテハ當時日本側ノ反對スルカ如キ貨  
物ハ支那輿地ニ輸出サレ居ラストノ事實ヲ述ヘタルニ止マ  
リ何等約束セルニアラス緬甸「ルート」カ再開サルレハ當  
然之ニ倣フモノト思フト答ヘタルニ付本官ヨリ香港ニ付テ  
ハ「クレイギ」大使ハ右ノ如キ事實ヲ述フルト共ニ禁止品

目ハ緬甸ノ夫レト同様ナルヘシト云ヘル點ニ於テ約束ナル  
コト明カニシテ而モ緬甸ニ對シテハ明確ニ期限ヲ定メ乍ラ  
香港ニ付テハ何等ノ期限ノ定メ無カリシ次第ナリト述ヘタ  
ルニ長官ハ本件ハ元來政府ノ決定スル事項ニシテ政廳ニ裁  
量ノ權限ナク本國政府ノ回訓モ其ノ内來ルヘキニ付暫ク待  
タレ度シトテ深く議論スルヲ避ケタリ

然ルニ往電第五四九號ノ「ロイター」倫敦電ハ前記民政長  
官ノ三分符節ヲ合ハスカ如キ論調ナレハ恐ラク英國政府  
ノ見解ヲ傳ヘタルモノト察セララルル處右ハ英國側カ香港ニ  
付何等決定ヲ爲ス前ニ一應日本側ノ反響ヲ見ントシテ爲セ  
ル「パロンデッセイ」ナルヤモ知レサルニ付東京及廣東等  
ニテ直ニ強ク之ヲ反駁セラルル要アルヤニ存ス卑見御參考  
迄

英、廣東ニ轉電セリ  
南大、上海へ轉電アリタシ

1963

昭和15年10月15日

在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港經由援蔣軍需物資禁輸措置を十月十八日以後

降は続行しない旨香港民政長官通報について

香港 10月15日後発

本省 10月15日夜着

第五五八號(大至急)

往電第五五〇號二關シ

十五日民政長官ハ只今本國政府ヨリ回訓到着セルカ右ニ依レハ本問題ハ一九三九年ノ状態ニ立戻リ武器及彈藥ハ引續キ輸出ヲ禁止セラルルヘキモ其ノ他ノモノハ解禁サルヘシトアリ從テ七月以來ノ「アレンドンメント」ハ十八日以後ハ續行セラレサルモノト考フト述ヘタリ右ニ對シ本官ヨリ重ネテ香港ニ付テハ期限ナカリシ點ヲ強ク指摘セルモ長官ハ本件ハ元來兩國政府間ニ話合ハレタルモノニシテ政廳ハ倫敦ヨリ之ヲ通報サレ且其ノ訓令ニ依リ行動セルニ過キス從テ今回解禁ノ訓令アル以上是亦其ノ通り實行スル外ナシト繰返スノミニテ訓令ノ當否等ニ付テハ議論ヲ避ケタリ尙本官ヨリ武器彈藥中ニハ「ガソリン」交通材料等ヲ含ムヤト質問セルニ對シ本年七月「クレীগ」大使ヨリ問合セアリタル際「ガソリン」ハ含マレサル旨ヲ明カニセリ「トラツク」鐵道材料等ニ付テハ研究シ見サレハ明言出來サルモ自

分トシテハ之モ當然含マレサルモノト解ス要スルニ純然タ

ル武器及彈藥ノミカ引續キ禁輸セラルルノミナリト思フト

答ヘタリ

英、廣東ニ轉電セリ

南(大)、上海へ轉電アリタシ



1964

昭和15年10月16日

外務省より  
在本邦英国大使館宛

援蔣ルート封鎖協定を期間満了後更新しない

との英国通告に対するわが方見解について

歐二普通第一六三號

口上書

帝國外務省ハ在京英國大使館ニ對シ「ビルマルート」輸送禁絶ニ關スル日英間取極ニ關シテハ本月八日在京英國大使府ニ於テ右取極更新ノ意嚮ナキ旨ヲ明ニセラレ從テ帝國政府モ今後本件ニ關シ獨自ノ見解ニ依リ適切ナル措置ヲ執ルヘキコトナリタル次第ナルカ右口頭通報ニ提示セラレタル諸點ニ對スル帝國政府ノ見解ヲ左ノ通爲念通報スルノ光

榮ヲ有ス

一、帝國政府ハ「ビルマルト」閉鎖ノ爲ノ七月十七日附協定ハ三ヶ月ノ期間内ニ於テ東亞ニ和平ヲ招來センカ爲ノ努力カ行ハルヘシトノ了解ノ下ニ成立セルモノト考ヘ居ラス

乍然東亞ニ完全ナル和平ヲ招來セントスルハ帝國政府ノ熱望スル所ニシテ右目的達成ノ爲凡ユル努力カ行ハレ且現ニ行ハレツツアルコトハ事實ナリ右努力カ未タ完全ナル成果ヲ擧ケサルノ故ヲ以テ「ビルマルト」ヲ再開シ反テ東亞ノ和平招來ヲ妨害セントスルカ如キ英國政府ノ措置ハ帝國政府ノ了解ニ苦シム所ナリ

一、佛領印度支那ニ帝國軍隊ヲ進駐セシメタルハ佛國政府ノ完全ナル了解ノ下ニ行ハレタル合法的行動ニシテ右カ東亞ノ和平招來ノ促進ヲ目的トナスモノナルコトハ説明ヲ要セサルヘシ右ヲ以テ「ビルマルト」問題ト關聯セシムル理由ヲ了解シ得ス

一、帝國政府力獨伊兩國ト政治的、軍事的、經濟的條約ヲ締結セルハ戰爭ノ擴大ヲ防止シ世界平和ヲ速ニ招來センコトヲ目的トスルモノニシテ「ビルマルト」問題ト何等

ノ關聯ナシト云ハサル可ラス

昭和十五年十月十六日

1965  
昭和十五年十月十六日  
在香港岡崎總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港經由援蔣軍需物資禁輸措置を継続しない  
との香港政庁通報に対し抗議申入れについて

別電 昭和十五年十月十六日發在香港岡崎總領事より

り松岡外務大臣宛第五六一号

右抗議

香港 10月16日後發

本省 10月16日夜着

第五六〇號(至急)

往電第五五八號ニ關シ

十六日公文ヲ以テ我方見解ヲ詳述シ政廳ノ決定ニ對シ抗議シ置ケルカ更ニ當方ニ於テ爲スヘキ措置アラハ御回訓ヲ請フ

尙右公文論旨御參考迄別電第五六一號ノ通り御見込ニ依リ別電ト共ニ可然ク轉電アリタシ

(別電)

香港 10月16日午後

本省 10月16日夜着

第五六一號

一、政廳ハ訓令ニ基キ武器彈藥ハ引續キ重慶側ヘノ輸出ヲ禁止スルモ「ガソリン」等ハ「ビルマ」ト同時ニ解禁セントスル處武器彈藥ニ關シテハ他ノ軍需品禁輸問題ヨリ遙カ以前ニ約束セラレタルモノニ付問題トナラス他ノ軍需品ニ關シテハ七月日本政府ノ要求ニ對シ英國政府力承諾セルモノニシテ而カモ「ビルマ」ノ場合ト異ナリ香港ニ付テハ何等期限ノ明示無シ

二、英國大使ノ申入ハ事實ノ陳述ニシテ約束ニアラスト言ハルルモ同大使ノ日本政府ニ爲セル回答ノ辭句ハ約束ナリト解スル外無シ又事實問題トシテ日本政府ノ要求提出前ハ香港ニ於テ本件物資ノ輸出禁止ニ關シ何等公式ノ表示アリタルコト無ク且七月十七日警視總監ノ通告七月二十一日貿易統制官ノ條例竝ニ當時本官力民政長官及貿易統制官ト爲シタル各種會談ハ何レモ其ノ以前ニ香港ニ斯カ

ル禁輸カ實施シ居ラレサリシコトヲ證明ス又所謂禁止物資カ禁輸實行前ハ相當程度支那領ニ輸出セラレツツアリタルコトハ周知ノ事實ナリ

三、以上各點ヨリ判斷スレハ香港ニ於ケル禁輸ハ約束ニシテ且期限ノ定メ無キモノナルコト明瞭ナレハ「ビルマ」問題ノ解決如何ニ拘ハラス香港ニテハ禁輸ヲ續行スヘキモノト信ス從テ「ビルマ」ト同時ニ香港ニ於テモ禁輸物資ノ取引ヲ制限セサラントスル政廳ノ決定ニ對シテハ抗議セサルヲ得ス

1966

昭和15年10月17日 大橋外務次官  
在本那クレイギー英國大使 會談

香港政庁の援蔣軍需物資禁輸措置解除通報に

対しわが方見解解通について

香港經由軍用資材輸出禁止ニ關シ大橋次官

「クレイギー」英大使會談ノ件

(昭和十五年十月十七日午前十時 於次官々邸)

大橋次官ヨリ別添寫ノ如キ「オーラル」ヲ讀上ケ手交シタル處英大使ハ

(一) 本件ニ付テハ未ダ承知セズ調査ノ上御答スベシ

(二) 唯自分ハ本協定ノ當事者ナルヲ以テ左ノコトハ之ヲ云フコトヲ得即チ本協定ハ決シテ無期限ナリトノ「アンダースタンディング」ハナカリシモノナリ

(三) 書キ物ノ最後ニアル「今後ノ一切ノ責任ハ英國政府ニ在リ」トアルハ「スレット」ナリヤト問ヒタルニ付次官ヨリ其處ニ書カレアル通りノ意味ナリト答フ  
大使ヨリ更ニソノ意味ヲ説明アリ度シト求メタルニヨリ次官ヨリ我方トシテハ香港ヨリ之等物資ノ輸出セラレザルヤウ有ユル適當ナル措置ヲ取ルノ必要アリ其ノ際ノ責任ハ英國側ニ在リト云フ意味ナリト述べタル所大使ハ其ノ場合英國權益ニ損害アル際ハ日本ノ責任ナリト反駁セリ

(別 添)

The Japanese Consul-General at Hongkong reports that the Colonial Secretary of Hongkong informed him yesterday that according to the instruction received from London the question of prohibiting the export of war

materials at Hongkong was to return to the situation of 1939 and although arms and ammunitions would be prohibited in future, other materials would be allowed to pass after October 18th.

The prohibition of transportation from Hongkong to China of arms and ammunition, gasoline, trucks, railway materials, etc., was promised by several letters and documents exchanged between Your Excellency and the Imperial Ministry for Foreign Affairs during June and July of this year, and in contrast with the case of Burma no date limit was affixed to the said prohibition. As to the categories of materials to be prohibited, Your Excellency's letter addressed to Mr. Arita dated July 16th stated that "regardless of whether or not Japanese troops are at any moment on the land frontier, the measures already in existence provide a prohibition of export to China of specific war material. The measures now to be taken will ensure that the export of additional categories will equally be prohibited. As regards the categories of materials,

whatever is agreed in the case of Burma will be applied in Hongkong." In regard to the duration of the prohibition the same letter stated that "the measures taken in Hongkong prevent, and will continue to prevent, the export of war material from the Colony, whether by sea or by land, to China and Chinese ports." In short it is clear that the war materials of the categories prohibited in Burma at that time were also prohibited at Hongkong with no limit as to its duration.

In these circumstances I must inform Your Excellency that our Government cannot but view with most serious concern the above-mentioned report from our Consul-General in Hongkong and that if it is actually the intention of the British Government to cancel arbitrarily the agreement reached about Hongkong, the entire responsibility for the future will rest on the British Government.

1967

昭和15年10月18日  
在香港岡崎總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

援蔣軍需物資禁輸措置の継続を検討中である  
との香港民政長官声明について

香港 10月18日後発  
本省 10月19日前着

第五六七號(大至急)

十八日午後民政長官ハ左ノ新聞發表ヲ爲セリ

十七日(十五日ノ誤ナルヘシ)民政長官カ岡崎總領事ニ爲セル口頭ノ聲明ハ倫敦ヨリ受領セル電報ニ對スル長官ノ解釋ニ基キタルモノナリ長官ハ七月ノ協定中香港ニ關スル部分ハ主タル協定ノ期限タル三箇月ニ限定セラレ居ラスト爲ス提案(counter-suggestion)ニ對シ目下考慮カ加ヘラレツツアルモノト了解ス純粹ノ意味ニ於ケル武器彈藥ノミナラス他ノ物資ニ對スル香港ノ期限ハ未タ解禁サレサルカ右ハ外交交渉ノ結果カ判明スル迄ハ解カレサルヘシ  
英へ轉電セリ

南京、上海、廣東へ轉電アリタシ

1968

昭和15年10月18日

在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

援蔣軍需物資禁輸措置の継続検討中との香港

民政長官声明の背後事情につき観測報告

香港 10月18日後発

本省 10月19日前着

第五六八號(大至急)

往電第五六七號ニ關シ

右民政長官聲明ノ眞意ニ付テハ本十八日ハ長官ト會見ノ暇  
無カリシ爲メ夕判然セサルモ恐ラク我方ノ強キ態度ト香港  
ニ於ケル禁輸ニ期限アリトナス先方ノ主張ノ根據薄キコト  
ニ依リ従前ノ態度ヲ稍變更セルモノト認メラル然ルニ元來  
政廳ハ本件交渉ハ兩國政府間ニ行ハルヘキノナリト主張  
シ居リ「クレイギー」大使モ七月同様述ヘタルコトアル次  
第二付此ノ際東京ニ於テ更ニ本件交渉ヲ進メラルルコト可  
然シト存ス尤モ當地ニ於テモ明十九日長官ト會見シ我方主  
張ノ貫徹ニ努力スル積リナリ不取敢

1969

昭和15年10月18日

在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマルト再開後最初の中国向けトラック

群がラシオを出発したとの諜報について

ラングーン 10月18日後発

本省 10月19日前着

第三一三號

本十八日二時「ラシオ」諜者ヨリノ電信ニ依レハ軍需品ヲ  
積載セル支那側「トラック」三乃至四十臺ヨリ成ル第一群  
ハセウネ國境ヲ出發セリ  
日本軍ノ空襲ニ對シ特ニ警戒スル様一般ニ注意ヲ發シ「ラ  
シオ」ニ於テモ同様ナリ第一「トラック」群カ爆撃ヲ免ル  
レハ引續キ更ニ多數ヲ出發セシムル筈ナリト

1970

昭和15年10月19日

在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

援蔣軍需物資禁輸措置を継続する旨の覚書を

香港民政長官提出について

香港 10月19日前発  
本省 10月19日後着

第五六九號(大至急)

十八日附民政長官ヨリ左ノ公文ヲ接受セリ

Directed acknowledge receipt your letter of 16th October, 1940, which contains protest on the subject of Burma road Agreement.

2. Restrictions imposed by this Government in July, 1940, have not been removed or relaxed and will not be until full consideration has been given to similar protests which it is understood have been made in Tokyo and London.

3. It is requested that your Government be early informed in the above sense.

南京(大)、上海へ轉電アリタシ  
英、廣東へ轉電セリ



1971 昭和15年10月19日  
在香港岡崎総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

援蔣軍需物資禁輸措置を継続することとなつ

た経緯に関する香港民政長官内話について

香港 10月19日後発  
本省 10月19日夜着

第五七〇號(大至急)

往電第五六八號ニ關シ

一、十九日民政長官ニ對シ本件真相ヲ質シタルニ極ク内證ノ話ナルカト斷リタル上十五日ノ訓電ノ意味ハ總督モ自分モ貴官ニオ話セルカ如キモノト解釋シタルカ其ノ後貴方ノ抗議ヲ倫敦ニ報告スル暇モナク「クレイギー」大使ヨリモ日本政府ノ抗議ヲ傳ヘ來リ右ハ非常ニ昂奮セル書振ナリシ處其ノ爲ニヤ倫敦ヨリ更ニ訓令アリ曩ノ電報ハ香港モ即時解放スヘシトノ意味ニアラストノ趣旨ヲ申越セリ依テ已ムヲ得ス一切ヲ民政長官カ訓令ヲ誤解セルモノト云フコトニシ前ノ決定ヲ取消シ新聞ニモ其ノ趣旨ヲ發表セル次第ナリ

二、依テ本官ヨリ十八日倫敦發「ロイター」ハ香港ノ禁輸ヲ續行スルヤ否ヤハ總督ノ權限内ニアルカ如ク報シ居ル處果シテ然ラハ本件交渉ハ直ニ當地ニ於テ開始致度シト述ヘタルニ

長官<sup>(2)</sup>ハ自分モ右報道ハ見タルカ何等カノ間違ナルヘシト  
思フ香港トシテハ本件交渉ハ東京又ハ倫敦ニテ兩政府間  
ニ行ハルルモノト諒解セシメラレ居レリ但シ御話ノ次第  
モアルニ付「ロイター」報道ノ件ト共ニ更ニ倫敦ニ問合  
スヘキカ反對ノ訓令ナキ限り差當リテハ香港ニハ交渉ノ  
權限ナシト解釋スト答ヘタリ

三、尙長官ハ本件交渉ノ結果判明スル迄ハ武器彈藥ノミナラ  
ス他ノ禁止物資モ香港ヨリ重慶側支那領ニ輸出セラレサ  
ルヘキコト勿論ナリトテ此ノ點ヲ保障シ最後ニ往電第五  
六九號ノ趣旨ハ大至急東京及倫敦ニ電報アリタシトテ頻  
リニ氣ニシ居タリ

英、廣東へ轉電セリ  
南京(大)、上海へ轉電アリタシ

1972 昭和15年10月20日  
在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマルト再開に対する重慶側の熱狂振り  
につき情報報告

上海 10月20日後発  
本省 10月20日後着  
第二一九四號

滇緬公路再開ニ關シ重慶發外電ヲ綜合スルニ同地各界ハ英  
國カ現在歐洲ニ於テ生死ノ問題ニ立チ居ル際スル決意ヲ示  
セルハ極メテ重視スヘキナリトテ異常ノ熱狂振ヲ示シ國民  
外交協會新聞界文化機關等ハ連名ヲ以テ倫敦及蘭貢關係機  
關ニ對シ夫々感謝電ヲ發シ又各紙トモ之ヲ大々的ニ報シ居  
レルカ特二十九日附新民報ハ米國ハ英支兩國援助ノ形式ヲ  
以テ兩大洋ヲ保護スヘキニシテ英米支三國同盟コソ最モ合  
理的措置ナルカ支那ハ既ニ對日抗戰ニ依リ事實上英米ト同  
盟國タル氣格ヲ具有スト論シ十八日宣傳部長王世杰ハ英國  
ニ感謝スル一方日本側空襲ノ活潑化ヲ期待シテ國民ニ警告  
スルト共ニ列國ノ對支援助ヲ要請シ又中央大學校長羅家倫  
ハ右ハ英國ノ對日「アピースメント」政策ノ打切りニシテ  
英支友好關係ノ強化ナリト放送シ更ニ交通部次長方覺慧ハ  
日本カ如何ナル行動ニ出ツルモ滇緬公路確保ノ自信アリ既  
ニ其ノ沿線ニハ防空壕労働者宿舍資材倉庫道路修理所等諸  
般ノ準備モ完成シ「ラシオ」昆明間ハ「トラック」ニテ約

五日ニテ到着シ得ル旨ノ談話ヲ發表スル等之ニ依リ國際情勢カ有利ニ急轉セルカ如ク印象付クヘク躍起トナリテ宣傳ニ努メ居ル模様ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ暗送セリ



1973

昭和15年10月21日  
在本邦クレギー英國大使より  
大橋外務次官宛

援蔣ルート封鎖協定は満期終了したが香港での援蔣軍需物資禁輸措置は続行される旨通報

香港經由軍用資材禁輸ニ關スル件

昭和十五年十月二十一日「クレギー」大使ヨリ  
大橋次官ニ手交セル書物要領

「オラル」

本月十七日閣下ハ本使ニ對シ在香港日本總領事ヨリノ報告ニ依レハ香港ニ於ケル軍用資材輸出ハ一九三九年ノ狀態ニ還ル可ク武器、彈藥ハ將來ニ於テモ禁止サル可キモ其他ノ資材ハ十月十八日以後ハ輸出ヲ許可サル可キ旨通報セラレタリ

右ノ點ニ關シ本使ハ閣下ニ對シ本使ハ右カ本國政府ノ意思ナルコトヲ承知セス恐ラク何等カノ誤解有ルモノナル可ク本使ニ於テ問合ハス可キ旨申述ヘタリ本使ハ今ヤ本國政府ヨリ現在香港ニ於テ實施セラレ居ル制限ノ如何ナル部分ヲモ除去スルノ意思今ノ處無之從テ十月十八日以後ハ武器、彈藥以外ノ禁止品ノ輸出制限ヲ除去スルコトカ香港當局ノ意思ナリトノ日本總領事ノ報告ハ根據ナキモノナリトノ本使ノ見解ノ確認ヲ受領セリ

前記會見ニ於テ閣下ハ七月十七日ノ協定ハ香港ニ對スル制限ニ付特定期限ヲ附シ居ラサルヲ以テ之等制限ヲ當該協定終了後モ維持ス可キ我方ノ義務存續スト主張セラレタリ其ノ際本使ハ閣下ニ對シ協定ニ關スル右解釋ヲ承諾シ得サル旨申述ヘタルカ今ヤ本使ハ本國政府ニ依リ同政府モ亦斯ノ如キ解釋ニ同意シ得サル旨通報セラレタリ本使ハ又七月十七日協定ノ香港ニ關スル部分ト緬甸ニ關スル部分ノ用語カ異リ居ルコトハ前者ニ於テハ武器彈藥ノ輸出制限カ既ニ若干期間實施セラレ居ルニ對シ緬甸ニ於テハ然ラサルコトニ基由セルモノナル旨申添フ又協定ノ本文及ソレニ先立チタル會談ヨリシテ英國政府カ香港ヨリノ特定範圍物資ノ輸出

ヲ無期限ニ禁止スル義務ヲ負ヒ居ルモノニ非ス又事ノ性質  
ヨリシテ負ヒ得サルモノナルコト明カナリ

七月十七日協定ノ終了及ソレニ伴フ義務ノ終了ト共ニ英國  
政府ハ本件ニ關スル行動ノ自由ヲ回復セリ然レ共前述セル  
如ク同政府ハ目下ノ處現在香港ニ於テ右協定ニ指定セラレ  
タル物品ニ對シ課セラレ居ル制限ノ何レノ部分ヲモ除去ス  
ルノ意思ナキモノナリ

編注 本文書の原案(英文)は省略。

1974

昭和15年10月21日

在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

メコン橋梁などビルマルートに対する日本軍

空爆の効果につき情報報告

ラングーン 10月21日後発

本省 10月22日前着

第三一六號(極秘)

支那側ヨリノ報道トシテ當地新聞ノ掲載記事ニ依レハ「ホ  
ザン」及「メコン」橋梁ノ爆撃ハ相當ノ效果ヲ收メタルモ

ノノ如シ蔣ハ總ユル努力ヲ盡シテ滇緬路交通ヲ保持スヘク  
廣九鐵道ニ従事セル技術及勞務者ヲ滇緬路ニ使用スル爲香  
港ヨリ蘭貢ニ輸送シツツアリト

諜報ニ依レハ二十日夜「ラシオ」ヲ出發セル自動車群ナカ  
リシカ如シ「メコン」橋梁ノ破損ニ依ルト判斷ス「ラシ  
オ」ニ集積シアル軍需品ハ主トシテ小銃同彈藥類及燃料ニ  
屬スルモノノ如ク其ノ數量ハ明カナラサルモ十九日夜日本  
短波放送UP電ノ如ク大ナラス多クモ其ノ一割以下ニアラ  
サルカト思考ス

右關係方面へ通報アリタシ

1975

昭和15年11月4日

在ラングーン福井領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

日本軍の空爆後もビルマルートによる軍需物

資輸送は続行されているとの情報について

付記 昭和十五年十一月七日付在本邦クレーギー英

国大使より松岡外務大臣宛半公信

日本軍用機の香港上空飛行およびビルマ領内

爆撃に対する抗議

第三二九號

ラングーン 11月4日後発  
本 省 11月5日前着

十月二十七日雲南出發「トラック」群(三二臺)ニ加ハリ三十一日「ラシオ」ニ到着セル諜者報ニ依レハ滇緬路ハ四日間杜絶ノ後自動車ノ交通ヲ復活セルモノノ如ク「ラシオ」ヨリ自動車群出發ノ情報跡ヲ絶タス蘭貢ヨリ「ラシオ」ニ向ヒ糧秣軍需品ノ輸送モ行ハレアリ保山西方騰越街頭上ノ橋梁ハ爆破セラレタルモ雲南行ニハ差支ナシ委細後報

(付記)

日本軍用機香港上空飛行ノ件竝日本軍用機ノ  
緬甸領爆撃ニ關スル件

昭和十五年十一月七日附在京英國大使發松岡大臣  
宛半公信要譯

(昭和十五、十一、九 亞一)

拜啓陳者本使ハ左記ノ如キ日本航空機ニ依ル英國領土侵害  
ニ對シ閣下ノ注意ヲ喚起致候

十一月四日月曜日午前八時二十五分(香港時間)日本爆撃機

一機香港上空ヲ通過セリ兩翼ニ於ケル日本標識ハ明カニ看  
取セラレ本機ハ九一型若八九六型ナリト信セラル

十月二十六日午後零時十分日本爆撃(機六)三十六機ハ緬甸領内

「キューコク」(Kynkok)上空ヲ東方ヨリ西方向飛翔セリ  
暫クシテ後之等爆撃機ハ再ヒ「モンギュー」(Mongyu)

(英國領土)ヨリ見ラレ更ニ又若干時後ニハ「ロイウキン」

上空ヲ飛翔セリ一般ニ之等爆撃機ハ英國領上空ヨリ「ロイ  
ウキン」ニ接近セルモノト判斷セラレタリ「ロイウキン」

爆撃後之等ハ東南方ニ向ケ「ナムカム」(Nankam)(英國  
領)上空ヲ通過シテ飛去レリ午後零時半爆撃機一機ハ「ナ  
ムカム」ノ南方四哩ニシテ國境六哩ノ英國領内ノ一村タル

「ロイロイムマント」(Loi-Loim-Mar-To)上空ニ於テ爆彈  
一箇ヲ落下セリ該爆彈ハ「ロイロイムマント」ヨリ三

「フアーロンク」ノ地點ニ落下シ茶畑ノ中ニ穴ヲ穿チタリ  
他ノ飛行機ハ「モンギュー」南方國境ヨリ相當南方ノ英國

領土上ヲ飛行シ居ルヲ「モンギュー」ヨリ見ラレタリ以上  
ノ證據ニ徴シ英國領土カ侵害セラレタルコトニ付テハ疑ヒ

ナシ  
本使ハ之等二箇ノ事例ヲ閣下カ日本航空機ニ依ル英國領土

ノ是以上ノ侵害ヲ防止スル爲措置ヲ執ル可ク直ニ希望セラ  
ルルコトヲ確信スルヲ以テ閣下ノオ耳ニ入レントスルモノ  
ニ有之候

敬具

ロバート・クレーギー

外務大臣 松岡洋右閣下

編注 本文書の原文(英文)は省略。

1976

昭和16年3月8日

松岡外務大臣より  
在英国重光大使、在ラングーン福井総  
領事他宛(電報)

重慶側軍隊のビルマ進駐の情報に関し大橋外  
務次官よりクレーギー大使へ真偽照会につい  
て

付記一 昭和十六年三月三日、東亜局作成

「重慶緬甸共同戦線牽制ニ關スル件」

二 昭和十六年三月十日付在本邦クレーギー英国

大使より大橋外務次官宛公信

右照会に対する英国政府回答通報

合第五一〇號

本省 3月8日後6時0分発

四日在京英大使ト會見ノ際次官ヨリ三日ノ香港發放送ニ依  
レバ蔣介石軍ハ緬甸ニ進入セリトノコトナルガ如何ト問ヒ  
タル處英大使ハ右ハ絶對的ニ事實ニ非ズ又蔣軍ノ同國內進  
入ニ關シ英支間ニ何等カノ協定アリトノ報道モ事實ニ非ズ  
ト述ベタルニ依リ次官ヨリ若シ蔣軍ガ緬甸ニ進入セバ右ハ  
蔣ガ同國ヲ占領シタルモ同然ナリト見做シ措置セサルヲ得  
スト述ベ置キタリ

本電宛先南京(大)、上海、北京(大)、香港、廣東、河内、  
新嘉坡、蘭貢、カルカツタ、英、米

(付記一)

重慶緬甸共同戦線牽制ニ關スル件

昭和十六、三、三 東亜局

重慶緬甸間ニ於テ軍事協定ノ成立、蔣軍ノ緬甸進駐、重慶  
側飛行機組立工場ノ「ビルマ」移轉、援蔣輸送路ノ改修建  
設(滇緬公路ノ改修、新鐵道ノ建設)等種々ノ情報ニ接シ居  
ル處最近ノ適當機會ヲ利用シ次官ヨリ英國大使ニ對シ左記

趣旨ヲ説シテラルルト共ニ新聞ヲシテ本問題ヲ取上ケシメ以テ(一)兩者接近ノ積極化ヲ牽制シ(二)今後ニ於ケル帝國ノ對緬甸及泰施策ニ本件ノ推移ヲ引懸利用シ得ル素地ヲ作り併セテ(三)本件諸情報ノ眞偽ヲ確ムルコト一策ト認ム

記

(一)前記ノ如キ諸情報ハ痛ク我方ノ輿論ヲ刺戟シ居ルコト  
(二)右ニシテ眞實ナリトセハ我方ニ於テモ適當ノ對抗策ヲ講セサルヲ得サルコト

(三)「チャーチル」首相ノ言明等ニ照シ矛盾アリ右ハ英國政府ノ如何ナル意圖ニ基クモノナリヤ説明ヲ得度キコト

(四)若シ事實ニ非ストセハ英國政府ニ於テ正式ニ之ヲ取消サルコト日英國交上必要アリト認ムルコト

備考

本件不取敢新聞紙ヲシテ左ノ要領ニヨリ大キク取扱ハシムルモノトス

- (1)各情報ヲ誇大ニ報道セシムルコト
- (2)英國ハ日支紛争ニ對スル中立ノ假面ヲ積極的ニ抛棄シ事變ノ擴大ヲ圖ラントスルモノナルコト
- (3)事變處理ヲ最重視シ居ル帝國トシテハ斯ル措置積極化

シ來ラハ斷乎自主的防衛措置ヲ講スルノ要アルコト

(付記1)

BRITISH EMBASSY, TOKYO.

March 10th, 1941.

(366/74FR/41)

My dear Vice-Minister,

With reference to our conversation on the 3rd instant, regarding unfounded reports of Anglo-Chinese activities, I write to inform you that my Government fully approved the categorical denial I gave of the story that Chinese troops had entered Burma or that an Anglo-Chinese agreement providing for such entry had been concluded. The telegram I received continued as follows:

“We do not propose to issue denials of each such report as it appears, but in response to press enquiries we are taking the attitude that Japanese agencies are inundating the Far East with highly imaginative stories regarding British activities, for reasons which

can only be conjectured. Since these stories are being faithfully reproduced by Transocean we cannot but feel suspicious as to the source from which they originated.”

Believe me,

my dear Vice-Minister,

Yours very sincerely,

R. L. Craigie

His Excellency

Mr. Chuichi Ohashi,

His Imperial Japanese Majesty's

Vice-Minister for Foreign Affairs.

~~~~~

1977

昭和16年3月10日

在ラングーン福井総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

重慶軍のビルマ進駐に関する諜報報告

ラングーン 3月10日後発

本省 3月12日前着

第五三號

(1) 支那軍ノ緬甸進入ニ關シ「ラシオ」諜者ノ報告左ノ通り

「支那軍夜間「ラシオ」ヨリ「シヤン」州「ケンタン」

(Kengtang)ニ輸送セラレタルカ右支那軍ハ更ニ同地ヨ

リ支那及佛領印度支那間國境方面ニ派遣セラルルモノナ

リトノ聞込ミアリタル處「ラシオ」ニ於テハ晝間支那軍

ヲ全然見受ケサルニ付

「ワンテン」附近ニ駐屯中ノ支那軍ノ動靜ヲ監視スル爲

三月三日同地到着五日夜刻迄滞在セル處二日間ニ支那兵

ヲ滿載セル「バス」三〇臺中「ワンテン」出發「ラシ

オ」ニ向ヒタルヲ目撃セリ尠クモ四、五百名ノ支那兵既

ニ「ラシオ」ヲ通過セルモノト思考セラル

(3) 二「ラシオ」ヨリ「ケンタン」方面ニ向フ唯一ノ道路「ロ

イレム」國道ニ於テ三月六日監視シ居リタル處二十三時

頃覆ヲ被セタル「バス」二十臺通過セリ「バス」ノ燈火

ニ依リ車内ノ人物カ軍服ヲ着セル支那人ナルコトヲ目撃

セシ由ナルモ右ハ支那人ナリトノ諜者ノ断定ハ夜間「バ

ス」ノ燈火ニテ觀察セルモノニシテ疑問ノ餘地モアルヲ

以テ目下諜者ヲ「ナスタン」方面ニ派遣手配中

~~~~~

1978

昭和16年3月13日

在上海堀内総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

上海よりの軍需資材再輸出を防止するためビ

ルマ・仏印等への援蔣物資輸移出禁止措置実

施方関係機関で協議決定について

上海 3月13日後発

本省 3月14日前着

第三五一號

本官發南大宛電報

第五九號

客年大臣宛往電第二三五五號ニ關シ

最近當地ヨリ軍需資材ノ再輸出盛シナル趣ヲ以テ上海海關ニ於ケル南支、佛印、緬甸向援蔣物資輸送禁絶措置實施方軍側ヨリ希望アリタルヲ以テ「ビルマ、ルート」再開ノ對策トシテハ既ニ時期ヲ失シ從テ其ノ一ノ狙所ナリシ外交的意義ハ多分ニ失ハレタル次第ナルカ兎モ角關係各機關(陸、海、興亞院、財務官)係官ノ參集ヲ求メ客年大臣宛往信機密第三二七八號附屬ノ措置案ヲ再協議セル結果原案ニテ即時實施方意見ノ一致ヲ見タルヲ以テ早速右要領及品目表英

譯ノ上三月十日曾禰ヨリ張關務署長ニ之ヲ手交説明ノ上財

政部ヨリ上海海關ニ對シ然ルヘク命令方申入レタル處張ハ

大體諒承シ周部長ト相談ノ上措置スヘキ旨答ヘタル趣ナリ

就テハ右命令至急發出方御指導相成度尙張ニ對シ本件ニ付

テハ既ニ貴館石黑書記官ト連絡濟ナル旨申聞ケ置キタルニ

付爲念一件書類空送ス

大臣、北大、天津、青島、廣東、香港、海内へ轉電セリ



1979 昭和16年3月17日

在上海堀内総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

重慶軍のビルマ進駐に関する中英軍事協定成

立の諜報報告

上海 3月17日後発

本省 3月17日夜着

第三六九號

AK情報

二月十日重慶ニテ「カー」大使ト何應欽トノ間ニ英支軍事

協定調印セラレタルカ主ナル條項左ノ通り

一、支那軍精銳部隊二萬ノ緬甸進駐必要ノ際ハ更ニ増加スル

コトヲ得

二、緬甸ニ支那派遣軍司令部ノ設置之カ移駐ニ要スル自動車「トラック」ハ英國ヨリ供給ス

三、英國軍事専門家ヲ支那軍顧問ニ招聘

四、英國ノ對支援助強化

五、英支兩國ノ滇緬公路共同防衛

尙別途情報ニ依レハ商震一行ハ蘭貢ニテ緬甸當局ト之カ技術の問題協議ノ結果杜津明ノ第五軍機械化部隊ヲ入滇セシメ雲南駐屯中ノ(一語不明)部隊ヲ入緬セシムルコトニ決定同部隊ハ既ニ出動準備中ノ由  
北京、南大、天津、漢口、香港、蘭貢へ轉電セリ

1980

昭和16年3月20日

在上海堀内総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

ビルマルートの輸送力増強を主眼とする英米

中三国秘密協定成立に関する諜報報告

上海 3月20日後発

本省 3月20日夜着

第四〇〇號

AK情報(出所中共東方局)

往電第三六九號協定ハ英支協定ト云ハンヨリ寧口緬支協定ト稱スヘキモノニテ右ノ外更ニ二月十一日重慶ニテ英米支三國秘密協定成立セルカ署名者ハ王外交部長及英米兩大使ニシテ全文九條ヨリ成リ三國ノ軍事専門家ヲ以テ極東聯合軍司令部ヲ緬甸ニ設置スルコト滇緬鐵道ノ建設、緬甸ニ於ケル飛行機製作工場及兵工廠ノ増設、重慶、蘭貢間航空路ノ新設、支那空軍ノ増強、緬甸、新嘉坡、香港共同防衛ニ關スル三國間ノ經濟的軍事的協力等ヲ約シ居ル由  
上海公使、南京、漢口、天津、香港、蘭貢、新嘉坡へ轉電セリ

1981

昭和16年4月2日

在ラングーン福井総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

滇緬鐵道設計画が進捗しつつあることを窺

わせる諸情報報告

別電 昭和十六年四月三日発在ラングーン福井総領

事より近衛臨時外務大臣事務管理宛第八三号

右鐵道のラシオ・国境間延長につき財政的全

責任を英本国政府が引受けるとのビルマ政庁  
発表

ラングーン 4月2日後発  
本 省 4月4日前着

第八三號

滇緬鐵道ノ豫定線路中約五十杆ハ緬支間國境未劃定地域ヲ  
通過シ居リ同鐵道ノ建設ニハ先ツ國境ノ劃定ヲ必要トシテ  
之カ爲任命セラレタル英支國境委員會ハ一九三七年四月中  
報告書ヲ作成セルモ英支兩國政府力之ヲ正式ニ承認セサル  
中ニ支那事變勃發シテ其ノ後國境劃定問題モ進捗セサリシ  
模様ナリシ處蔣政權ハ客年中前記未劃定地域ヲ英國ニ讓渡  
シ其ノ代償トシテ鐵道材料ノ對支供給方ヲ英國ニ申込ミタ  
ルモ英國政府ハ之ニ對シ何等ノ決定ヲ見居ラストノ諜報モ  
アリ又本年一月緬甸政府使節ノ重慶訪問及先般蔣政權軍事  
使節ノ緬甸訪問ハ同鐵道ノ完成ニ役立チタリトノ諜報モア  
リタルカ客月二十三日重慶發「ルーター」電報ハ同鐵道ノ  
建設工事ニ當ルヘキ技師杜鎮遠ハ米國鐵道業者ト技術上及  
材料供給上問題商議ノ爲渡米ノ途ニアリ又國民參政會ニ出  
席中ノ在米蔣政權代表鄺炳舜ハ同鐵道建設資金トシテ金貨

公債賣却ヲ監督ノ爲近ク歸米スヘシトノ報道ヲ爲セル處本  
月一日緬甸政府ハ別電ノ「コムミュニケ」ヲ發表セリ  
尙緬甸ノ輿論ハ滇緬交通路(道路及鐵道)ノ開設カ齋スヘキ  
利益ハ英國資本家力之ヲ吸收シ緬甸國民ハ何等右利益ニ均  
霑セサルヘク右開設ハ緬甸民族ヲ壓迫スル支那移民ノ流入  
ヲ來スニ過キストノ見地ヨリ右開設ニ反對シ來リタルカ最  
近ニ於テハ右開設ニハ反對セス專ラ本件鐵道ノ完成ト同時  
ニ移民法ノ制定及關稅法ノ修正ヲ政府ニ要求シ居レリ  
別電ト共ニ英ヘ轉電セリ

編注 別電第八三號は本電報と電報番号が重複している。

(別電)

ラングーン 4月3日後発  
本 省 4月4日後着

第八三號

緬甸政府ノ「プレスコミュニケ」  
「ラシオ」ヨリ緬支國境迄ノ鐵道延長ニ關シ緬甸政府ハ緬  
甸ハ相當年限内ニ收益ヲ生ム見越シ確實ナラサル線路ノ建

設右維持ニ依リ生スヘキ損失ノ危険ヲ負擔シ得ル程富裕ニ  
 アラストノ態度ヲ持シ來リタルカ當初ヨリ之ヲ知り居リタ  
 ル英國政府ハ緬甸政府ト協議ノ上緬甸鐵道ノ緬支國境迄ノ  
 延長及之カ運營ニ付財政上全責任ヲ引受クルコトニ決定セ  
 リ緬甸政府ハ鐵道ノ延長ニ同意スル條件トシテ(一)緬甸ニ何  
 等ノ財政的負擔ヲ掛ケサルコト(二)緬甸ハ鐵道買收ノ選擇權  
 ヲ與ヘラルヘキコト(三)關稅、旅券及ヒ移民ニ付必要ナル統  
 制ヲ爲スヘキコト(四)鐵道ノ安全ヲ確保スル爲通常ノ措置適  
 用サルヘキコトノ四ヶ條ヲ英國政府ニ提示シ右條件實施ノ  
 手段ハ英緬兩政府間ノ正式協定ニ於テ詳細規定スヘキコト  
 ニ合意セリ緬甸政府ハ本件鐵道ニ依リ流入スル移民ノ統制  
 ニ必要ナル規則ヲ制定シ得ヘクテ緬甸ハ通常新鐵道ノ  
 開設ニ伴フ財政的責任ヲ負ハス又緬甸ノ利益ヲ害スルカ如  
 キ危険ヲ負フコトナクシテ本件鐵道ノ齎ラス貿易量、運輸  
 量ノ増加ニ依ル利益ヲ受クヘシ

1982

昭和16年4月7日

在上海堀内総領事より  
 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

ビルマ・仏印等への援蒋物資輸移出禁止措置

を上海海関実施について

別電 昭和十六年四月七日発在上海堀内総領事より

近衛臨時外務大臣事務管理宛第五三九号

右禁止品目

上海 4月7日後発

本省 4月7日夜着

第五三八號

本官發南大宛電報第五九號ニ關シ

一、張。關務署長等督促ノ結果李海關監督ヨリ「ローフォー

ト」宛訓令ヲ發セシメタル結果三月七日以降上海海關ヲ

シテ別電第五三九號(一)列記ノ品目ノ佛印緬甸香港九龍廣

州灣租借地澳門及南支未占領地域向ケ輸移出禁止ヲ實施

セシムルコトトセリ

二、本件發表ニ關シテハ「告示」ニ代リ國民政府財政部側ヨ

リ適宜新聞發表セシムルコトトシ今週中ニ右實行方張ト

打合濟

三、尙昭和十四年十二月六日以降維新政府ノ命令ニ依リ上海

海關ニ於テ實行中ノ南支未占領地域及香港向ケ輸移出禁

止(一五品目前顯別電(一)參照)ハ前記新部令ニモ拘ラス引

續キ之ヲ實施セシムルコトトナリ居ルニ付右爲念  
南大、北京、天津、青島、廣東、香港、河内、蘭貢へ轉電  
セリ

(別電)

上海 4月7日後発  
本省 4月7日夜着

第五三九號

- <sup>(1)</sup>四月七日ヨリ實施ノ佛印、緬甸、南支未占領地域等向ケ  
援蔣物資輸移出禁止品目(二九品目括弧内ハ稅番)
- 一、銅及銅製品(家庭用品ヲ除ク)(一三六一—一四六)
  - 二、鐵及鋼<sup>?</sup>竝ニ鋼製品(家庭用品ヲ除ク)(二四七一—一八八)
  - 三、「ワイヤ」(一四四—一七一—一七七)
  - 四、「ワイヤ、ロープ」(一四五—一八一—一八二)
  - 五、發電及送電用機械竝ニ同部分品(二一七)
  - 六、耕作機械及同部分品(二一八)
  - 七、發動機及同部分品(二二〇)
  - 八、汽罐類及同部分品(二二二)
  - 九、軍用ニ供セラルヘキ科學機械(二二五)

二、飛行機、飛行艇及其ノ他ノ航空機及同部分品(二二  
六)

- 二、自動車「トラック」及同部分品(二二九)
- 三、鐵道及軌道用品竝ニ同部分品(二三〇)
- 三、電線及電纜(二三六乙)
- 四、蓄電池、乾電池、充電器及同部分品(二三八)
- 五、電話機、電信機及同部分品(二四四)
- 六、鹽酸(三九六)
- 七、硝酸(三九七)
- 八、硫酸(三九九)
- 九、「グリセリン」(四一六)
- 二〇、硝石(四二六)
- 二一、智利硝石(硝酸曹達)(四三五)
- 二二、硫黃(四四二)
- 二三、「ガソリン」揮發油及「ベンジン」(四八一)
- 二四、機械用「グリース」(四八三)
- 二五、重油(四九一)
- 二六、潤滑油(四九七)
- 二七、水硬性「セメント」(五八七)

二六、自動車「トラック」用「タイヤ」(六二二丙)  
二七、現行税金規則ニ列記セラレ居ル禁制品  
二八、昭和十四年十二月六日以降實施中ノ南米未占領地域及香港向輸出禁止品目(十五品目)

- 一、自動車
- 二、貨物自動車
- 三、自動車部分品
- 四、自動車用「タイヤ」
- 五、護謨底靴(大人用)
- 六、「ラヂオ」用蓄電池(大型)
- 七、電池(小型)
- 八、電球(小型)
- 九、懐中電燈
- 一〇、電信用器械及材料
- 一一、電話用器械及材料
- 一二、電線類一切
- 一三、鐵板
- 一四、木材
- 一五、「セメント」

1983

昭和16年4月23日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

上海海關が実施したビルマ・仏印等への援蔣物

資輸出禁止措置の対仏印例外規定につき請訓

上海 4月23日後発

本省 4月23日夜着

第六八〇號

往電第五三八號ニ關シ

當地海關ニ於ケル援蔣物資ノ南方向ケ輸出禁止措置ニ關シ  
當地佛國總領事ヨリ右ハ國際情勢ノ現狀ニ鑑ミ歐洲方面ヨ  
リノ物資補給ノ杜絶セル佛印ニ取リテハ大打撃ニシテ單ニ  
正當ナル商取引ニ阻礙アルノミナラス佛印自體ヲ甚タシク  
困難ナル地位ニ陥ルルモノナル處現在佛印、支那間ノ國境  
ハ閉鎖セラレ援蔣「ルート」ハ日佛委員會ニ依リ嚴重監視  
サレ居ルノミナラス最近當地ヨリ佛印向ケ輸出物資中ニハ  
佛印總督府自身使用スル物品尠カラサルニ鑑ミ佛印自體ノ  
正當ナル需要物資ニ限り特ニ例外的辦法ヲ設クル様取計ア  
リタキ旨申出アリタルヲ以テ海關側トモ聯絡ノ上左記ニ據  
リ佛印自體ニ於テ使用スル物資ニシテ再輸出ノ惧ナキ物ニ

限り特別ニ取扱ヲ致度キ所存ナル處(此ノ點當地陸海軍側モ同意見)本件ハ目下御交渉中ノ對佛印通商經濟交渉トモ何等關係アルヘキヲ以テ右例外的取扱ニ關スル御意見何分ノ儀御回示相煩度シ

記

一、佛印自體ノ鑛山、電燈、鐵道、水道、會社其ノ他公共團體及公共事業ニ使用スル機械類及藥品等ニシテ再輸出セサルコト明白ナルモノニ限り佛國總領事館ニテ右證明ノ上海關監督ニ對シ護照ニ代ルヘキ「パーミット」ノ發給ヲ請求セシムルコト

二、海關監督ヲシテ右「パーミット」ノ發給ニ先タチ當館ニ聯絡セシメ當館ニ於テハ陸海軍ト聯絡シタル上孰レモ差支ナシト認メラレタル場合ニハ認印ヲ捺シ之ヲ海關監督ニ回附スルコト

三、海關ニ於テハ海關監督ノ發給スル「パーミット」ニシテ當館竝ニ海軍當局ノ認印アルモノノミ之ヲ有效トシテ例外的取扱ヲ爲ス

南大、香港、河内へ轉電セリ



1984

昭和16年5月14日

在ラングーン磯野(勇三)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマ人の英国および中国に対する反感や独立気運などに関する観測報告

ラングーン 5月14日後発  
本省 5月15日前着

第一二九號(館長符號扱)  
本官著任以來觀得シタル當領緬甸人ノ情勢ニ關シ左ノ通り參考迄

一、緬甸人ハ特ニ英國側宣傳ノ先棒ヲ擔ク一派ヲ除キ時機至ラハ強國ノ支持ヲ得テ獨立ヲ獲得セント期シ居ル旨ヲ言明スルコト殆ト常識的ニシテ内ニハ見榮ニモ右ヲ振廻スモノアリ從テ果シテ何レカ真劍ニ獨立ノ爲ニ一切ヲ抛ツ覺悟ヲ有スルモノナリヤ識別ニ困難ナシトセサルモ一般ニ漠然乍ラ今ニ優ル好機無シト信シ居リ殊ニ奧地住民ハ近ク日本軍進駐スヘキニ付其ノ時コソハ英國ニ對シテ日頃ノ恨ヲ晴サント期待シ居ルモノノ如シ(最近蘭貢市内官衙、重要商店等カ空爆ノ彈丸破片防護裝置ト稱シテ外路ニ面シテ煉瓦ノ塀ヲ構築中ナルヲ目シテ緬甸人ハ緬甸

人暴動ニ備ヘ居ルモノナリト私語シ居レリ)而シテ緬甸人ノ英國ニ對スル憤懣ハ最近全國ニ支那人ノ流入甚タシク若シ此ノ上演緬鐵路開通セハ支那兵ノ爲緬甸人ノ生活ハ抹殺セラレントスルトノ懸念ニモ尠カラス因由スルモノト認メラル

### 二、一方英國官憲ノ彈壓強化ノ爲

從來多少ノ組織ヲ有シタル獨立黨各派領袖ハ悉ク監禁セラレ從テ運動ハ地下ニ潛行スルニ至レルモ監禁中モ外界ト全ク隔絶スルニモ非スシテ本官着任(脱)當方ニ聯絡シ又ハ之ヲ爲サント努ムルコト稀ナラス之等各派ハ大同團結シテ全國的統一新黨ヲ組織スル意圖アリヤヲ忖度スルニ從來ノ觀察ニ依レハ其ノ機運無キノミナラス各派互ニ相剋排擠シテ他ノ弱點ヲ發クニ急ニシテ假ニ外部ヨリ統一機關形式ノ要ヲ強調スルモ緬甸人ノ性質上通常ノ情勢ニテハ見込無カル可シトノ論多シ之等各派カ別個ニ我方ニ接近シ又ハ黨員ヲ國外ニ脱セシメテ準備態勢ヲ整フルモノニ依リ各派間ニ自黨ノ勢ヲ張り之ヲ誇示セントスル所以ニ過キササルヤニ認メラルル節アリ

從テ當方ニ於テ或ル一派ト或ル程度ノ聯絡ヲ爲ス時ハ他

ノ派ヲ筒拔ケニ此ヲ傳聞シテ我方ニ却テ中傷の聯絡ヲ爲シ來ルコトアリ

三、「タキン」黨ハ先年穩健派「コダマイレ」ト急進派(客年機密第五一號往信「タキン」黨ノ現狀御參照)分裂シテ以來前者ハ更ニ「タキン、ヌウ」「タキン、ミヤー」(現代議士)及ヒ「タキン、ラボウ」等ノ「グループ」ニ分裂シ互ニ嫉視スル事常ノ如シ急進派ハ「タキン」黨發生當時ノ氣魄ト實行力トヲ有スル如キモ領袖タル「タキン、トンオク」ハ逃避中又「タキン、バセン」ハ入獄中ニシテ積極性無ク財政ニモ窮迫シ居ルモ依然デンインニ相當ノ勢力ヲ有スル如シ

他方「シンエダトウ」ハ「パーモ」入獄中ナル爲(一語不明)ハセサルモ同人ハ七月頃釋放セラレハシトノ事ニ比較的廣範圍ニ信望ヲ有スルコト同人ニ如クハ無ク且ハ從來ノ經歷ニ鑑ミ若シ將來有事ノ際統一的中心人物たり得ルモノアリトセハ之ヲ(他)ニ求メ難カルヘシト認メラル

四、以上ノ情勢ニテ目下準備機關トシテハ各黨各派ノ一二偏スルコト無ク差當リ其ノ何レヲシテモ落膽スルコトナカ

ラシメ且各派ヨリ心アル者ヲ一旦國外ニ招致シテ充分ナル實際の準備ヲ授クルト共ニ團結シテ將來ニ備フル様指導スルコト少クトモ仲間割レヨリ破綻ノ生スルコトヲ防止スル上ニ於テ必要ト認メラル

尙聞ク所ニ依レハ當地英國官憲ハ日本側ノ或ル方面ニテ緬甸人獨立黨員四十名ヲ國外ニ脱出セシメントシ居レリトノ情報ヲ有スルモノノ如ク當方ニ接近シ來ル緬甸人ノ一二對シテ右四十名ノ一ナラスヤト探查シタル趣ナリ  
「タイ」へ轉電アリタシ

1985

昭和16年7月7日  
在ラングーン磯野総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

米国の援蔣軍需物資輸送がビルマルートを通  
じ近く飛躍的に増加するとの観測報道報告

ラングーン 7月7日午後発  
本 省 7月8日前着  
第二一一號

(一)當地漢字紙ハ重慶竝ニ「ラシオ」特電トシテ數ケ月中ニ米國ヨリノ援蔣物資ハ大量ニ増加スヘキコトトナリ特ニ

兵器、高速度戦闘機爆撃機及飛行人員續々輸送セラレハク之ニ依リ支那空軍ハ營ニ優勢トナルノミナラス今次戰爭ニ大轉換ヲ來タスヘク即チ日本ハ北進モ南進モ不可能トナリ日支戰爭ニ没頭セサルヲ得サルニ至ルヘシト報ス  
(二)右ハ二日紐育電トシテ當地ニ傳ヘラルル緬甸「ルート」

援支物資ノ輸送ヲ容易ナラシムル爲「ロ」大統領ノ發表セル緬甸向ケ船舶及貨物ニ對スル噸稅輸出稅等ニ特惠ヲ與フル布告ト併セ米國カ近ク對支援助物資ヲ飛躍的に増加セントスルコトヲ指示スルモノカト認メラル

(三)更ニ四日電トシテ當地漢字紙ハ滇緬公路ノ輸送量力増加ノ爲ノ第一報トシテ七月六日ヨリ從來各省ニ分屬シ居リタル全支各公路ノ技術部ヲ全國軍事委員會運輸管理部ノ直屬下ニ置クコトニ變更スルコトトナリタル旨報道ス

1986

昭和16年7月8日  
在ラングーン磯野総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ビルマルートにおける援蔣軍需物資の輸送準備が活況を呈しつつある旨報告

ラングーン 7月8日後発  
本 省 7月9日前着

第二一四號

支那向ケ軍需品輸送準備ハ最近頓ニ活況ヲ呈シ來レルコト  
累次往電就中往電第二一號ノ通りナル處右效果ハ數箇月  
後ニ非サレハ當地ニ於テ現認シ得サルヘキモ最近迄ノ事實  
ニ徴スルモ

一、堆積セル飛行機材料ノ支那ヘノ搬入ヲ急キ居ルコト往電  
第二〇六號ノ通り

二、支那向ケ「トラック」ノ組立工場最近更ニ顯著ナル増加  
及繁榮ヲ來シ蘭貢市内外至ル所完成品充滿シ居リ又最近  
ハ車體ニ例ヘハ廣西公路ト大書シタルモノアリ又當地稅  
關ハ七日附ヲ以テ支那向ケ再輸出セララル「トラック」  
ノ通過手續ヲ簡易化セリ

三、右ニ反シ當地ニ陸揚セラルル毎月ノ米國ノ援蔣物資ハ六  
月迄ハ高級「ガソリン」ノ目立チタル大量到着ヲ除キ大  
體前月ト同様ナル狀態ナリ

六月中米國船ノ比較的少カリシハ今後米國船ヲ他ニ移シ  
外國船ヲシテ援蔣物資ヲ運搬セシメ其ノ代リスル外國船

ニ米國船待遇ヲ與フルコトトナリタルモノノ如ク想像セ  
ラル

四、米國ヨリノ材料ニ依ル蘭貢ノ支那向ケ飛行機組立工場ハ  
往電第四九號所報ノ位置ヨリ「ミンガラオク」飛行場ニ  
接近セル地點ニ移轉シ最近組立工場一棟完成シ六日目撃  
シタル所ニ依ルモ構内屋外ニ組立完整セル偵察機ト思ハ  
ルルモノ一臺工場内ニ組立中ノモノ一臺其ノ他構内外各  
所ニ翼ヲ入レタル大ナル木箱散在セリ諜報ニ依レハ同工  
場ニハ支那人職工約三百ニ達シ何レモ支那ニ空輸シ蘭貢  
ヨリ「ラシヲ」迄ハ濠洲人「パイロット」操縦シ「ラシ  
ヲ」ヨリ雲南迄ハ同地ニ待機中ノ支那人「パイロット」  
ニ引渡シ居レリトノコトナリ

五、何レニセヨ最近著シク活潑トナレル援蔣國側ト共同セル  
此ノ種活動ノ結果ハ適度ニ消耗セラレサル限り既ニ或ハ  
近ク當然支那奧地ニ蓄積セラレ居ルモノト認ムル要アル  
ヘシト推測セラル

1987

昭和16年9月23日

在香港木村(四郎七)総領事代理より  
豊田外務大臣宛(電報)

ビルマルート<sup>(1)</sup>の輸送力改善など重慶政權援助問題において米國が英中兩國に対し主導的立場を強めつつあるとの情報報告

香港 9月23日後發  
本省 9月23日夜着

第四六九號

往電第三四三號ニ關シ

最近ノ英米支關係左ノ通り

一、曩ニ日本軍ノ西貢進駐ニ際シ重慶ハ緬甸「ルート」ノ危機ヲ強調シ英米ヲ説キ日本軍力緬甸「ルート」ヲ襲撃セル場合ハ重慶側ニ協力シ其ノ交通維持ニ當ルヘキ旨ノ了解取付ニ成功セルカ目下ノ所米ヨリ供給ノ飛行機ノ一部ヲ緬甸國境ニ留メ居ル程度ニテ右ニ必要ナル措置ハ別ニ講セラレ居ラス(A)

二、米國ノ重慶援助ハ飛行機ノ供給操縦士ノ訓練輸送ノ改善及法幣維持ノ四者ニ重點ヲ置カレ居ル處其ノ遣口ハ最近特ニ自國本意トナレリ近況左ノ通り

(イ)重慶側ニ到着セル飛行機ハ精々百三四十臺ニシテ内組立ヲ了セルモノ三十臺足ラス其ノ他ハ部分品ノ儘日本

機空襲ノ恐無キ地方ニ藏置セラレ又重慶側航空人員ハ專ラ成都ニ於テ米人ヨリ訓練ヲ受ケ居ル處重慶側ハ設備不充分ヲ理由ニ米國ニ於テ訓練方希望セルモ話纏ワラス一通リノ訓練ヲ了スル迄ニ少クトモ尙三箇月ヲ要スル見込ナリ(十三日大公報ハ航空人員多數重慶及昆明ヨリ來香内一部ハ當地遠東航空學校ニ入學他ハ米國及馬尼刺ニ赴キ訓練ヲ受クル旨報道シ居ル處PAニ依レハ本件人員ハ極メテ少數ノ由)尙米國ヨリ派遣ノ操縦士等ハ百六十名ニ達シ支那人五ニ對シ米人一ノ割合ニテ戰鬪ニ參加方了解成リ居ルカ目的ハ實戰ニ對スル經驗ヲ積マシメントスルニアリ又米國ヨリ隨時派遣ノ代表團乃至視察團等ノ多クハ諸般ノ内情調査ノ使命ヲ帶ヒ居リ既ニ八、九分通り調査ヲ了セル模様ナリ(PA)

(ロ)重慶側ヨリ何應欽僉飛鵬米國側ヨリ「アンズチン」等參加ノ下ニ八月二十四日ヨリ五日間ニ亘リ昆明ニ於テ緬甸「ルート」輸送改善ニ關シ協議セラレタルカ其ノ際重慶側ヨリ現在ノ二十數箇ノ機關ヲ撤廢ノ上最高機關ハ英米支三箇國代表ヲ以テ組織シ且全線ヲ六區二分

ケ各區ニ米人顧問及技師ヲ配置方提案セルニ對シ「ア」ハ保山一切ノ輸送ハ緬甸國防部邊防總幹部ノ管理ニ歸セシムヘキ旨主張物別レトナリ折角愈ニ於テ考究中ナルカ一方鐵道敷設ノ爲(主トシテ滇緬鐵道)米ヨリ二千五百萬米弗ニ相當スル材料ヲ供給ノ事ニ決定既ニ輸送開始シ且右材料ノ用途指導監督ノ爲米ヨリ陸軍少佐「オースラン」ヲ派遣三日重慶ニ到着セリ(XYZ)

重慶緬甸ノ關係ハ最近特ニ複雑化シ隨時視察團等ヲ派遣シ居ル處(チウソノホーカ最近重慶ヨリ來香ノ孔祥熙夫人ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ重慶及緬甸政府間ニ軍事同盟成立セル由ナルカ右ハ一ト符合スル節アリ)一方重慶側ノ對印度接近モ又見逃シ得サルモノアリ

昭和16年11月27日

在サンフランシスコ武藤總領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

滇緬鐵道の建設が米国の全面的援助により進められているとの報道報告

第三〇六號

サンフランシスコ 11月27日後発  
本 省 11月28日後着

本月五日當地「クロニクル」特派員發昆明通信要領左ノ通り

重慶側ハ河内昆明鐵道ニ代リ重要援蔭「ルート」トナルヘキ「ラシオ」昆明間三百哩鐵道建設ヲ急キ約百萬人就働シ居ル處「マラリヤ」等惡疫ノ爲斃ルルモノ數千人ニ達シ日下米支兩國衛生員(米側一七名支那側二一五名)ニ依リ防疫施設中ナルカ其ノ費用六十八萬八千弗(内五十萬弗ハ貸與法ニ依ル醫療品)ヲ要スル見込ナリ

本鐵道建設材料ハ貸與法(一千五百萬弗割當テラル)ニ依リ全部米國ヨリ供給シ居リ全線ヲ各小部分ニ分ツノ方法ヲ採リ居ル趣ニシテ日本軍ノ爆撃疫病等ノ障碍無ク豫定通り進行セハ完成時期ハ來年十二月頃トナルヘシ  
米、紐育、河内、蘭貢へ轉電セリ